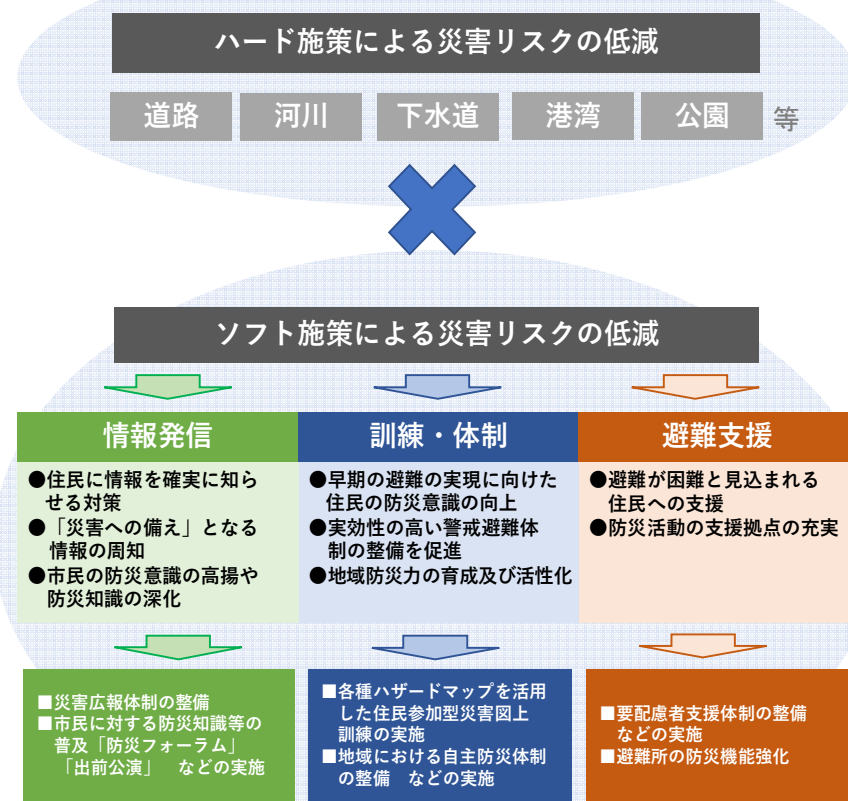


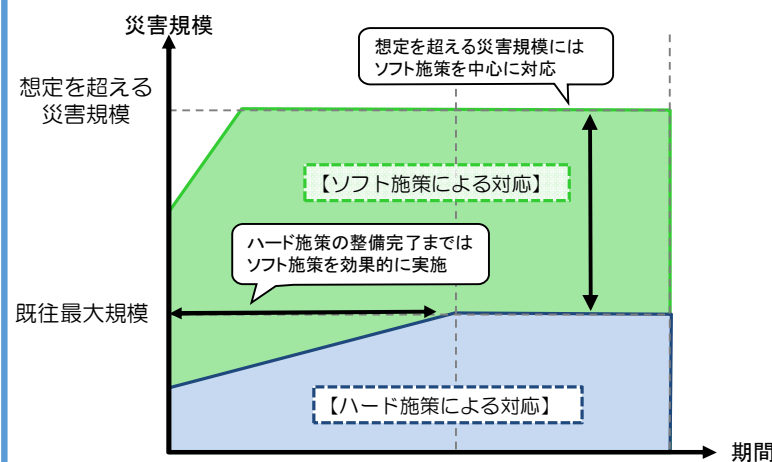
◆取組施策の方針

想定を超える災害により、防ぎきれない事態が起こり得ることを前提に、被害をいかに小さくするかということを主眼に、ハード施策とともに、ソフト施策を重層的に組み合わせた「減災」対策を推進します。
また、災害の対策については、市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、都市機能誘導区域・居住誘導区域であるかに関わらず取り組みます。

- 【取組施策の考え方】**
- 「人命の保護」を最大限に図るため、ハード施策と共にソフト施策を重層的に組み合わせた減災対策の実施
 - 市・住民・事業者等の多様な主体の協働による総合的な防災対策の実施
 - 市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、居住誘導区域内外に関わらず災害対策を実施



◇災害規模に対する取組施策の対応



【想定を超える災害規模】

災害種別	発生頻度等
洪水	概ね1000年に1回程度超
高潮	既往最大規模の台風を想定（室戸台風相当の中心気圧と伊勢湾台風相当の移動速度、半径）、高潮と同時に河川での洪水を考慮、最悪の事態を想定し、堤防等の決壊を見込む福岡県に襲撃する可能性のある想定津波のうち、最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルについて、以下のように選定 ・南海トラフの巨大地震・西山断層・対馬海峡東の断層 ・周防灘断層群主部
津波	

【既往最大規模】

災害種別	発生頻度等
洪水	概ね50～150年に1回程度超
高潮	過去に発生した最大規模の高潮
津波	比較的発生頻度の高い津波

※上図はイメージ図です。各種災害や取組により、目標とする災害規模、期間等は異なります。
※災害規模については、今後、気候変動の影響等により変化があることに留意下さい。

◆防災減災の主な取組施策

本市の防災指針では、取組施策の考え方に基づき、居住誘導区域内外における災害リスクを低減させるため、必要な防災・減災対策を示し、計画的に実施してきます。以下に示す事業は対策の一例です。

ハード施策（例）（取組施策：35件）

洪水・内水対策

河床の掘削

洪水・内水対策

雨水管等の整備

土砂対策

【急傾斜地】
【砂防】

砂防・急傾斜の整備事業イメージ

津波対策

防災活動の支援拠点となる大里公園の整備（避難地）

高潮対策

海岸保全施設の整備事業

ソフト施策（例）（取組施策：54件）

情報発信

防災情報北九州

防災情報北九州ホームページ

訓練・体制

住民参加型災害図上訓練（DIG）

DIG実施の様子

避難支援

避難行動要支援者避難支援事業

地域による避難支援の仕組みづくり

◆目標値

【目標設定の考え方】

土砂災害ハザード区域への移転者が一定数いることを踏まえ、住民のライフスタイルの変化等に合わせた移転の際に、居住誘導区域やより安全な地域への誘導を図ることで、土砂災害ハザード区域への移転人口を抑制していきます

評価指標	土砂災害ハザード区域への移転人口
現状値	2,300人 (H27～R2の5か年の移転人口)
数値目標	現状値の50%減 (R17～R22の5か年の移転人口)